



秋川流域

2022.9.24

# ジオの会通信

VOL. 13

秋川流域のジオサイト⑬



砂岩泥岩互層

## くらかけの滝

檜原村、南秋川の支流矢沢にかかる滝。一般にはあまり知られていないが、矢沢の車止めより少し河床を歩いたところ出会う。落差は2段 4mほどと小さいが、左岸の岩壁が大きく張り出し、狭窄部を勢いよく流れ下っている。周辺の地層見学と合わせて、南秋川のジオサイトとしての活用したいところだ。

この滝周辺は、四万十帯小仏層群の盆堀川層の砂岩泥岩互層で、地層が逆転している。沢が地層の走行と直交する場所で、沢は大きく湾曲して滝を形成する。

### 〈目次〉

秋川流域のジオサイト⑬	.....	1
活動報告	(事務局)	..... 2
剥ぎ取り調査報告	(櫻澤裕樹)	..... 2~3
会員向けジオツアー報告「涼風体験 檜原風穴」	(田野倉勝則)	..... 4~5
会員リレーエッセイ	(佐藤 健)	..... 5~6
産廃焼却場問題その後 これからの行事予定	(事務局)	..... 6

## これまでの行事

一般向けツアーの開始はまだ再開できていませんが、会員向けでツアーが始まりました。ツアーに向けた下見調査や有志による勉強会などは活発に行われています。

### ○事務局会

7月12日(火)、8月9日(火)、9月13日(火)

### ○全体会(学習会)

- ・6月25日(土)「ジオ室展示資料解説」青谷知己・内山孝男さん(会員)
- ・7月23日(土)「ヒマラヤの地質構造と先行河川」鈴木肇さん(会員)
- ・8月27日(土)「地域問題解決のみをする観光業として、現役世代が考える市民活動の継続循環」宮入正陽さん(会員)

### ○フィールドツアー、ガイドツアー

- ・9月3日(土)ガイドツアー「涼風体験 檜原風穴」

### ○調査チーム・有志による勉強会。

#### ① テーマ「新第三系研究の進展」

日本地方地質誌3「関東地方」を使って、第1、第4水曜日に輪読会を行っています。

#### ② →調査チーム「上総層群研究チーム」

「多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト報告書」を使って、全体会のある日の11時より勉強会を行っています。

#### ③→調査チーム「付加体研究会」

7月7日(木) 多摩六都科学館にてホセ入沢の石の鑑定依頼

9月9日(金) 黒瀬川帯の地質について 宮下敦(成蹊大学)先生をお招きして講演していただきました。

#### ④ジオ情報室展示パネル作成委員会

情報室のパネル22枚を作成中です。毎月第2木曜日に検討会を開いています。

## 三内川地層剥ぎ取り標本作製プロジェクト

(みちくさの達人 櫻澤裕樹)

皆様初めまして、(というよりも、お久しぶりです。)新入会員の櫻澤です。今回、標記プロジェクトをについて、事前準備から実際の剥ぎ取り作業まで関わらせて頂きました。

8月24日から26日までの三日間(草刈り、整地、塗り、待ち、剥ぎ取り、洗浄、表面保護)の工程を経て、三内川、まいまい坂下流左岸の約10万年前に木曾御岳山から降り注いだ御岳第1テフラ(On-Pm1)を含む留原層の剥ぎ取り標本を合計3枚作製しました。



### 24日

#### 草刈り

斜面は草に覆われて地層は全く見えない状態でしたが、先輩会員の天野氏、

田野倉氏の手により、あっという間に目的の地層が出現

#### 整地

スコップ、ツルハシを用いて、剥ぎ取り予定の地層の大まかな整地、剥ぎ取り範囲を決定し、草刈りガマを用いてさらに表面の整地を実施



25日

### 塗り

専用の接着剤をハケを用いて地層面に丁寧に塗布し、ガーゼ状のシートを貼り付け、さらに塗布を実施。

### 待ち

接着剤が浸透、固結する約3時間の待ち時間を利用して、三内川の巡検を実施。秩父帯と五日市町層群の不整合、未確定のテフラの観察などを実施。

### 剥ぎ取り

接着剤を塗布したシートの上から注意深く剥ぎ取りを実施

### 洗浄

シャワーで表面を軽く洗浄し、固結していない部分を洗い落とした。

26日

### 表面保護

表面に透明なラッカースプレーをかけ保護し、完成。



剥ぎ取り作業終了までは、展示するに値する標本が作れるのか、その場にいた全員が半信半疑でしたが、想像以上に綺麗な標本が作製出来ました。

完成した標本は戸倉しろやまテラス及びジオ情報室に展示予定です。御岳第1(On-Pm1)の他に、御岳-伊那(On-In)、御岳-湯町(On-Kt)のテフラも含まれていますので、探してみてください。

(写真提供；青谷)



## 涼風体験 檜原風穴！！ 一柏木野の埋もれた遺産を訪ねてー (田野倉勝則)

9月3日に開催された檜原風穴ガイドツアーは天候にも恵まれ一人の怪我人などもなく無事終了しました。13名の参加者とスタッフ4名の17名でした。

最初に今回檜原風穴ガイドツアーを開催できたのは檜原村在住会員の吉川さんと風穴研究では第一人者の清水長正先生の並々ならぬご尽力のおかげです。また配布資料中には清水先生並びに角田先生の資料も使わせていただきました。

檜原風穴は秋川流域ジオの会の前身の秋流ジオの会当時2016年と2017年に清水先生のジオツアーが開催されました。続いて2019年には日本風穴学会が年に一回各地で行われている風穴サミットを東京で

行い、ここ檜原風穴でツアーをやることになっていました。ところが直前になって風穴のある山林の地権者の同意を得ることができませんでした。この背景には最近手入れの行き届かない荒れた山林が目につきますが、耕作放棄畑と同じく山林の所有者が点々と変わり所有者にたどり着くのに時間がかかるケースが多くなっています。ここもサミット直前で所有者にたどり着いたのは良いのですが、所有者との調整が間に合いませんでした。大手新聞社や檜原村が後援団体でしたが、その瞬間に一齐に手を引き同時にツアーもできなくなり、以来今回までここは団体活動としては封印されていました。

現在の所有者を見つけ、他県のご自宅までお伺いし、立ち入りの同意を取り付けたのが先のお二人です。そうして今回の檜原風穴ガイドツアー開催の運びとなりました。ツアーに参加の方はお分かりの様に、一切手が付けられておらず、檜原村役場もこの遺産の価値やシオ的価値も未確認。公的な保全的活動も未だの状態です。まさに「柏木野の埋もれた遺産」になります。今後も立ち入る際は貴重な文化遺産ですので現状維持に努め、構築物や石垣などには手を加えないようお願いいたします。

ツアーは先ず南秋川の川に降り四万十帯の説明から始まり、途中周囲の山の説明、分岐点では地滑り地形の説明と風穴の関係。風穴では遺跡の構造や風穴想像図の説明、2号風穴では冷感体験、3号風穴ではあらかじめ置いていたぐっと冷えたペットボトルの水を飲んでもらい、冷涼水体感をしていただきました。それから各風穴の砂岩の詳細説明、そして最後に養蚕の歴史文化的説明など、多岐にわたる解説並びに質疑応答であっという間の有意義なツアーになったと思います。また参加いただいた小泉先生からは、標高500mというそれほど高くない標高にも関わらず、風穴がある故の冷涼な大気に満たされているので植生の特殊性が見られる、など興味深いお話も聞くことができました。

途中見た植生では、ヤマシノホトトギス、ハグロソウ、マツカゼソウ。風穴周辺では、マルバネコノメソウやコケ類の群生など。風穴周辺の樹木では、ブナ、サウグルミ、カツラ、カエデの類、チドリノキ、オヒョウなども。また、ブナの幼木もあったということで、このブナに関しては、その幼木が成長するかどうかについて、ツアー終了後にかなり話が盛り上がりました。



第一風穴



第二風穴



第三風穴



出発前ツアー説明



分岐点地滑り地形説明



各風穴砂岩の違い説明

## ジオ あれから早や八年 いま思うこと

公民館でジオパーク推進会議のポスターを見て、「これは何？」と、問合せたのが契機で、養成講座の受講者になってから早や八年半になる。地学などには無縁の自分にとって、当初は「チンプンカンプン」でした。とは言え「始めたからには3年は続ける」と腹を決めたのを思い出す。購入した高校地学の教科書を手始めに、推進会議から頂いた多量の資料や入手した関連ネット情報や書籍を、分からないながら目を通すうちに徐々に面白くなってきた。続いて発足した「あきりゅうジオの会」に参加して今がある。しかし、何事によらず真剣味の乏しい私の性分、皆さんのお役には立っていないのを恥じるばかりです。

さて、私なりにジオに関わってきて感ずることは多々ありますが、取り分け強く感ずるのは「時間」という概念です。当たり前と言われればそれまでですが、地質年代などが発端で「存在するもの全て、そこには膨大に長い時間・歴史が有る」という事です。人間が現在あるのも、ミンミンと蝉がしぐれるのも膨大な時間の帰結である。即ち、万物の創造主である「神」とは「時間」と言えるのではと妄想してしまう。そう思うと色々見えてくる。これは、私の細やかなジオ体験を通じて初めて感ずるようになったことです。

話は変わりますが、今年ジオの会で文献の勉強会が2つ発足し、参加している。私にはどちらも難解ですが、「脳の血流増」と割り切って楽しみながら続けています。しかし、「データはフィールドにある」が鉄則の地学です。「ペーパーだけでは駄目」は分かっていますが、ここ2～3年体力の衰えが顕著で自分には辛いところです。降り坂の自分にとって、平地はともかく登り坂はきつく、躊躇してしまう。

ところで、「秋川流域ジオの会」になって3年半近くなる。今や市内外からの参加者も増えて、当初の倍余りとなり、コロナ禍ではありますが、立派に運営され、素晴らしいプロジェクトと感じています。これは役員の方々、先生方のご芳志・ご貢献のお陰と、心から感謝敬服いたしております。これからどういう方向に進んで行くか大きな課題とは思いますが、益々発展することを祈念すると共に、私個人としてはジオツアー・学習会や平地の巡見程度ですが、参加し楽しませて頂きたいと思っております。



三頭山ジオツアー  
ホルンフェルス前

養沢 旧神谷鉱山  
マンガン鉱石探し



下仁田ジオパーク関東大会  
背景の根なし山（クリッペ）に  
「そんなことあるの」と吃驚する

## 檜原村廃棄物焼却場問題 その後

南秋川の人里地区の上流右岸の森沢で計画されている、産業廃棄物焼却施設の建設計画については、周辺の自然環境や下流域への悪影響が懸念されており、ジオの会としてもその動向に注目してきました。現地視察を重ねる中で、予定地周辺は地滑り地形に囲まれ、地質も脆弱で、防災の点からも問題の多い場所であることもわかってきました。会としては6月に東京都へ意見書を提出するとともに、その設置計画を業者が断念するよう、問題点を広く伝える広報活動や署名活動への協力など、会としてできることを進めていきます。

都からの設置許可の可否は11月ごろ予定されており、専門家会議の判断が注目されます。

7月9日 檜原村の産廃施設に反対する連絡協議会設立総会 個人参加

7月19日 檜原村村議会 比留間建設へのヒアリング傍聴。ジオの会で予定地現地見学会実施

7月27日 東京都専門家会議（第1回）開催 実現性への疑問視する声が続出

10月下旬 専門家会議（第2回）開催予定

## これからの行事

### ○全体会

- ・9月24日（土）14時～ 戸倉しろやまテラス2階研修室  
学習会 「東京西郊丘陵地帯にヒメハナカミキリがない理由」 武智昭一さん（会員）
- ・10月22日（土）14時～ 五日市交流センター 2階会議室  
学習会 「四国の黒瀬川帯を訪ねて-関東山地との比較」 青谷知己さん（会員）
- ・11月26日（土）14時～ 五日市交流センター 2階会議室  
学習会 「野鳥の春夏秋冬」 荒井悦子さん（会員）

### ○会員向けジオガイドツアー

- ・候補地と日程が決まりました。スタッフ中心に、下見を進め、内容の確定を進めていきます。
  - ① 涼風体験！檜原風穴 9月3日（土） 実施済み
  - ② 日の出町谷の入沢・於奈淵・鹿の湯跡 11月29日（火）
  - ③ 石探検ツアー 12月11日（日）

○研究テーマに合わせた調査や室内実習は、随時行っていきます。またオンライン講演会などの情報は随時メールで配信します。

## 会員・会費

秋川流域ジオの会では、随時会員を募集しています。秋川流域の大地の豊かさと面白さを学び、伝える活動にぜひご参加ください。現在の会員数は55名です。

☆年会費 2,000円（会計年度 1月～12月）

☆振込口座 西武信用金庫 五日市支店(024)

普通口座 1173684 秋川流域ジオの会 会計 田野倉勝則

秋川流域ジオの会通信 vol.13

2022年9月24日発行

発行 ; 秋川流域ジオの会 URL: <http://www.akigawavalleygeo.com>

発行人; 内山孝男 編集事務局; 青谷知己

連絡先; 〒197-0814 あきる野市二宮 1300-97 池田美智子 t e l 080-5470-1588